

社 会 科

社会科部 井出 悠介 中野 智貴

研究協力者 宮崎 沙織

I 社会科における教科本質的な学びについて

社会生活における人々の営みやその仕組みの価値を認識したり、それらを基に実社会と自らとの関わり方を見いだしたりする学び

社会科の本質的な意義の中核をなす見方・考え方は「位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係などに着目して，社会的事象を捉え，比較・分類したり総合したり，地域の人々や国民の生活を関連付けたりすること」である。この見方・考え方を踏まえ，社会科の教科本質的な学びを「社会生活における人々の営みやその仕組みの価値を認識したり，それらを基に実社会と自らとの関わり方を見いだしたりする学び」とした。本校では，「共によりよい生活を創造する子ども」の育成を目指している。「共によりよい生活を創造する子ども」を育成するためには，社会科の教科本質的な学びが欠かせない。なぜなら，社会科の教科本質的な学びを繰り返すことで，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者としての公民的資質を育むことができるからである。公民的資質とは，社会の中で他者と関わりながら生きていくための力である。この力があることで，社会生活の様々な場面で，自他の人格を尊重したり，複数の立場を踏まえて考えをもつことができたり，公正に判断したりすることができる。つまり，この公民的資質を身に付けることは，共によりよく生きていくことができる生活を創造していくことにつながる。

2 研究の方向

社会科の教科本質的な学びは「社会生活における人々の営みやその仕組みの価値を認識したり，それらを基に実社会と自らとの関わり方を見いだしたりする学び」である。この教科本質的な学びにおいて，他者と協働して問題解決的な学習を行うことは，「自他の考えを聞き合いながら，社会的事象の特色や相互の関連，意味を共に見いだしていく」という意味をもつ。社会科では，まず，資料から読み取ったことを比較・分類，関連付け，総合しながら自らの考えをもつ。そして，その考えを他者と聞き合いながら，社会的事象の特色や相互の関連，意味を共に見いだしていく。他者の考えには，自らが気付かなかった異なる立場からの考えを含んでいることがある。自他の考えを聞き合いながら，問題を追究していくことで，社会的事象を多角的に捉えながら，問題を解決することができる。

したがって，社会科の学びの中で，非認知能力である「他者と協働する力」は，協力しながら社会的事象の特色や相互の関連，意味を共に見いだしていくことに向かって発揮される。

ここで，社会科の教科特性に着目すると，社会的事象の特色や相互の関連，意味を見いだす場面において，自ら資料を読み取り，社会的な見方・考え方を働かせながら，具体的知識や概念的知識を見いだそうとしている姿は，よい学びであると言える。しかし，自らが見いだした考えのみで追究を終わりにしてしまう子どもの姿が現れることがある。これは，資料から読み取った情報を比較・分類，関連付け，総合しながら考えが見いだせたと感じると，自らが見いだした考えに満足してしまい，「他者と一緒に問題を解決したい」という思いが弱くなるためだと考えられる。他者と一緒に問題を解決していかないと，社会的事象を多角的に捉えることができず，公民的資質の素地を育むことが困難に

社会科の教科本質的な学びを踏まえ、「社会科を学ぶよさ」を子どもたちと共有する機会を単元の初めに設ける。(図1) その際に、社会科を学ぶ意義を、子どもたちと世の中をつくりあげていく一員として行動できる、として捉えた。また、社会科における学びにおいて、諸資料から読み取れる情報を

根拠とし、それを関連付けたり、総合したりしながら具体的知識や概念的知識を見いだしていくことを学習方略として捉えた。その学びを実現するために、自他の考えを聞き合いながら、社会的事象の特色や相互の関連、意味を共に見いだしていくことを社会科における協働的に学習する意味として位置付けた。これらのことを社会科の問題解決学習に活用していく。【つかむ】過程では、具体的知識や概念的知識を見いだすために、単元の学習の見通しや自らの学び方を見通しをもつ。【追究する】過程では、自らの考えの基とした立場や資料を明確にしながら自他の考えを聞き合い、他者と協力することで、具体的知識を見いだしていく。【まとめる】過程では、見いだした概念的知識と自らの生活とのつながりを考えることで、実社会と自らとの関わり方を見いだしていく。また、単元を通しての自らの学び方を振り返ることで、次時の単元での自らの学び方へつなげる。



＜図1 「社会科を学ぶよさ」の図＞

②プロセスを基にした学びのデザイン

学びのプロセス	学びのデザイン
【社会科の教科特性による困難さ】 資料から読み取ったことを関連付けると、一人でも考えを見だし、めあてを解決できそうだよ。	デザイン① 多様な立場から考えることのできる資料の提示
わたしと違う立場から考えた人もいるかもしれないな。 友達は、どのような考えをもっているのかな。	デザイン② 自他の考えを聞き合う活動を促進する「社会科を学ぶよさ」の活用
友達と一緒に考えられたら、いろいろな立場を基に、めあてを解決できそうだな。	
「他者と協働する力」の発揮	

③学びのデザインの具体

多様な立場から考えることのできる資料の提示

子どもたちの「わたしと違う立場から考えた人もいるかもしれないな」「友達は、どのような考えをもっているのかな」という意識をもつためには、子どもたちが見いだした考えが多様な立場から考えたものでなければならない。なぜなら、社会的事象に対して多様な立場から考えをもてるようにすることで、「友達は、自分とは違う立場から考えをもっているかもしれないから、友達の考えを聞きながら一緒にめあてを解決していきたい」という思いが強くなるからである。そこで、多様な立場から考えることのできる資料の提示を行う。多様な立場から考えることのできる資料とは、「お客さん」「生産者」「気候」など、社会的事象に対して多様な立場から考えることのできる資料を指し、各学年の代表的なものは、以下のようなものである。(図2) このような資料を提示することで、社会的事象に対して様々な立場から考えをもつことができ、自他の考えの根拠が多様になるため、他者の考えに関心が高まり、より「他者と協働する力」の発揮を促す。

	単 元	学習内容(観点)	資 料	立 場
3年	スーパーマーケットをたんけんしよう	品物の売り方	店員さんの話、お客さんの声	「お店」「お客さん」
4年	みずから守る! わたしたちの暮らし	市役所の取組	市役所の方の話、河川敷に住む人々の声	「市役所」「市民」
5年	あたたかい土地に住む人々の生活—沖縄県—	沖縄県の観光	沖縄県の観光客の推移、沖縄県の赤潮問題	「開発」「環境保護」「気候」
6年	子育て支援の願いを実現する政治	税金の働き	市役所の方の話、市民の願い	「支える」「支えられる」
	戦国の世から天下統一へ	織田信長の政策	楽市楽座の仕組み、信長が支配した領地	「信長」「武士」「商人」

＜図2 各学年の代表的な多様な立場から考えることのできる資料＞

自他の考えを聞き合う活動を促進する「社会科を学ぶよさ」の活用

子どもたちの「友達と一緒に考えられたら、いろいろな立場を基に、めあてを解決できそうだな」という意識をもつためには、自他の多様な立場から見いだした考えを聞き合うことで、協力しながら問題解決ができる、という学習の見通しをもつことが必要である。なぜなら、他者の考えに触れ合わなければ、自らの考えのみで追究が終わってしまい、社会的事象を多角的に捉えづらくなってしまいうからである。そこで、自他の考えを聞き合う活動を促進する「社会科を学ぶよさ」の活用を単元の初めと、一単位時間のめあてに対する考えをもつ際に行う。

単元の初めでは、「社会科の学び方で大切なこと」を問いかけることで、自他の考えの基とした立場や資料に着目しながら、聞き合うことの重要性を想起させる。また、「社会科を学ぶよさ」を問いかけることで、自らと実社会とのつながりを意識しながら追究していく、という単元の学び方の見通しをもてるようにする。

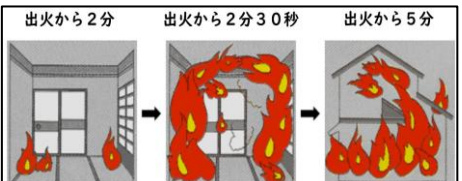
一単位時間のめあてに対する考えをもつ際は、「社会科の学び方で大切なこと」「社会科を学ぶよさ」とともに、「一単位時間に見いだすこと」を問いかけることで、自他の考えを聞き合いながら見いだす社会的事象の特色や相互の関連、意味を明確にできるようにする。

以上のことから、自他の考えを聞き合いながら様々な立場を基にめあてを解決していこうとするため、「他者と協働する力」の発揮を促す。「社会科を学ぶよさ」は、子どもたちがいつでも見返せるようにデータで配付したり、教室に掲示したりしておく。

具体例 3年 「火さいから守る」

第5時 めあて：消防団は、どのような取組をしているのか明らかにしよう

※めあてを立てた後、多様な立場から考えることのできる資料の提示として、以下の資料を配付し、「消防団」「消防士」の立場から、めあてに対する考えをもてるようにする。

消防団員さんのお話 消防団に参加していた中野さんの話 消防団は消防士とは違い、いつもは他の仕事をしています。近くで火事があったときはすぐに現場に行き、消火をします。火が小さいうちに消火できるので、消防車が来る前に火を消してしまったこともあります。消防車が来た後は、消防士が活動しやすいように、お手伝いをします。  中野さん	附属小の周りの消防署や消防団を示した地図  消防しよや消防だんのある所 - 前橋市消防局 - 北消防しよ - 北消防しよ 白川分しよ - 中央消防しよ - 南消防しよ - 中央消防しよ 千代田分しよ - 城分しよ - 中央消防しよ 赤坂分しよ - 東消防しよ - 西消防しよ - 西消防しよ 宮城分しよ - 利根分しよ - 消防だん
火が広がる早さ 出火から2分 出火から2分30秒 出火から5分 	

自他の考えを聞き合う活動を促進する「社会科を学ぶよさ」の活用

※多様な立場から考えることのできる資料の提示後、自他の考えを聞き合う活動を促進する「社会科を学ぶよさ」の活用として、「社会科の学び方で大切なこと」「一単位時間に見いだすこと」「社会科を学ぶよさ」を問いかける。

 社会を学ぶときに大切なことがあったけど、どんなことだったかな。また、なんでそれが大切だったかな。※「社会科の学び方で大切なこと」についての問いかけ	 自分の考えの立場や一番使った資料を聞き合うことです。聞き合うと、いろいろな立場から考えられるし、友達と一緒に問題を解決できるから、聞き合うことが大切です。
 そうだね。友達と、どの立場や資料から考えたのかを聞き合いながら、一緒に問題を解決していけるといいね。ということは、今日は、聞き合うことで何が分かればいいかな。 ※「一単位時間に見いだすこと」についての問いかけ	 消防団がどのような取組をしているのかが分かればいいと思います。消防士がいるから、消防団はいらないはずだけど、いるからには、何かしらの意味があるはずだよ。
 そうだね。世の中にあるものには、何かしらの意味があるはずだね。社会では、そのようなものの意味や特色などが分かると、どのようなよさがあったかな。 ※「社会科を学ぶよさ」についての問いかけ	 世の中の仕組みが分かるようになるから、自分ができていることを考えられるようになると思います。今回だと、火災から身を守るために自分ができていることを考えられるようになりそうだな。だから、友達と協力をして、消防団の人たちがどのような取組をしているのか、明らかにしたいな。

4 成果と課題

本校社会科における問題解決的な学習の中で「共によりよい生活を創造する子ども」の育成に向けて「他者と協働する力」を発揮する学びのデザインについて研究を進めてきた。その結果、次のような成果と課題が明らかになった。

○成果

子どもたちは、「他者と協働する力」を発揮して、協力しながら様々な立場を基に社会的事象の特色や相互の関連、意味を共に見いだすことができるようになった。このことは、多様な立場から考えることのできる資料の提示によって、自他の考えの根拠が多様になったり、自他の考えを聞き合う活動を促進する「社会科を学ぶよさ」の活用によって、聞き合うことのよさを確認したりしたこと、他者と一緒にめあてを解決していきたい」という思いを高めることができたからであると考えられる。

○課題

多様な立場から考えることのできる資料を提示するだけでは、自らの考えや立場を明確にした上で聞き合う活動を行うまでに至らないことがあった。また、自他の考えを聞き合うことを重視したことで、他者の考えに共感することが多くなり、他者の考えを受け入れるのみで追究を終わりにしてしまう姿も見られた。これらのことを解決し、子どもたちが「他者と一緒にめあてを解決したい」という思いをさらに高められるように、見方・考え方がより働く学習シートの用意が効果的であると考えられる。学習シートは、時間の流れや事象や人々の相互関係などに合わせた資料の配置、自らの考えや立場を記述する欄の設置等の工夫をする。これにより、自らの考えや立場が視覚化され、聞き合うための共通の土台ができあがり、自他の考えを共有しやすくなる。それによって、協力しながらめあてを解決していこうとする思いが高まり、「他者と協働する力」の発揮をより促すことができると考える。

【参考文献】

- ・田村学（2022）『「ゴール→導入→展開」で考える「単元づくり・授業づくり」』小学館。
- ・澤井陽介（2023）『これからの社会科教育はどうあるべきか』東洋出版社。
- ・群馬県教育委員会事務局（2023）『各教科授業改善プロジェクト【社会】授業改善研修会資料』。